

平成30年6月18日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K00478

研究課題名(和文) 日本伝統音楽学習のためのコンテンツ制作と教材化

研究課題名(英文) Developing digital teaching materials for learning traditional Japanese music

研究代表者

田中 健次 (Kenji, Tanaka)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：10274565

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は萌芽研究(課題番号：25540158)で得た知見と方法論を用いて、日本伝統音楽学習のためのデジタル教材を開発し、音楽科教育に寄与しようとするものである。伝統音楽を「全体概要」「雅楽」「声明」「能楽」「琵琶楽」「尺八楽」「地歌箏曲」「歌舞伎」「浄瑠璃」「民謡」に分類し、それらに対して「音楽史」「音楽特性」「使用楽器」「奏法解説」「実演」「海外文化からの影響」「受容層」「現代文化とのかかわり」の切り口から三次元情報を加えたコンテンツの収集・作成、それらをもとにしたデジタル教材の作成を行った。

研究成果の概要(英文)：Using the knowledge and the methodology gained from Grant-in-Aid for Exploratory Research (no. 25540158), this study attempted to contribute to music education in Japan, developing digital teaching materials for learning traditional Japanese music. The teaching materials were created based on the following: 1) Classification of the traditional music into Gagaku, Sho-myō, Noh-gaku, Biwa-gaku, Shakuhachi-gaku, Jiuta-So-kyoku, Kabuki, Joruri and Folksongs, followed by the general outline; 2) Content collection and production, adding three dimensional information from the following point: music history, characteristic of music, musical instruments, explanation of rendition, performance, influence of overseas, recipient, and connection with Modern culture.

研究分野：音楽教育

キーワード：音楽科教育 デジタル教材 日本伝統音楽

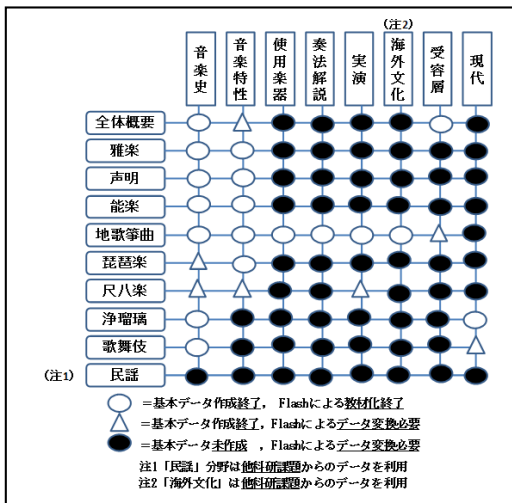
1. 研究開始当初の背景

本研究は先行研究(挑戦的萌芽研究平成 25、26 年度「課題番号 255401148:日本伝統音楽学習のためのデジタルコンテンツ開発」)で得た知見と方法論を用いて、伝統音楽学習のためのデジタル教材開発を拡大・深化させ、音楽科教育に寄与使用するものである。周知のように音楽科教育において伝統音楽学習が義務付けられ、その実施において教育現場では「箏」を中心とした実技演習が定着しつつある。しかし音楽教育の伝統音楽全般に対する理解という点ではいまだ十分であるとはいえず、またその理解に意欲をもっても教師が参考にする図書類そのものが専門的な内容で難解であること、加えて図書は二次元情報であるため、伝統音楽に用いられる具体的な演奏や楽器の詳細な情報、さらにはそれら伝統音楽が成立するまでの歴史的・社会的・文化的な周辺情報についての理解に限度があることも事実である。

本研究は音楽科教育における伝統音楽理解を促進するために、「伝統音楽の全体理解」と伝統音楽を構成する各分野をわかりやすく理解するための三次元情報を加えたデジタルコンテンツの開発とその教材化を目指すことにあった。

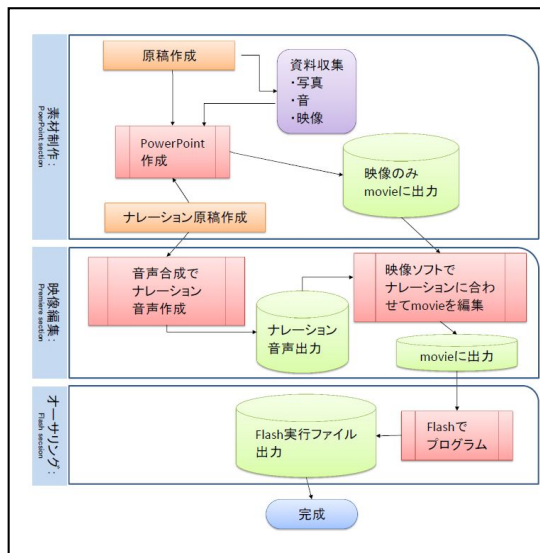
2. 研究の目的

先行研究で得た知見、教師へのアンケート、ヒアリング等を通して作成したコアカリキュラムをもとに、効果的なデジタルコンテンツの作成手法を応用し、より教育現場の要望に沿ったFlashをもちいた教材化を基盤にして、日本伝統音楽の10分野のうち残り8分野(1 雅楽 2 声明 3 能楽 4 琵琶楽 5 尺八楽 6 浄瑠璃 7 歌舞伎 8 民謡)と、各分野の相関関係が理解できる9 日本伝統音楽の全体像(概要)を加えた9分野についてデジタルデータ作成とその教材化をおこなうことが本研究の目的であった。以下が本研究で実施する全体像であり、三年間の研究期間で印のデータ収集、デジタルコンテンツの作成とその教材化を行うことが目的の具体である。



3. 研究の方法

先に述べた に関するデータを浜松楽器博物館他研究協力者(邦楽演奏家を含む)から情報・画像(静止画・動画)を受けながら年度計画にしたがって収集し、PPT で基本データの作成をおこなった。そののちFlash データへの変換をおこなった。Flash への変換は専門業者の技術が必要なため外注となった。具体的な作業方法は下図の手順である。なお作成されるデジタルコンテンツは教育現場での活用を考え概ね 40 分から 45 分とした。



4. 研究成果

研究期間中に作成したデータは次のとおりである。デジタル教材については各年度で作成できたデータを翌年度、音楽教師たちに実際に活用してもらいそこから得た意見をもとに修正することとした。作成したデジタル教材:平成 27 年度(能楽、琵琶楽、尺八楽、)平成 28 年度(雅楽、声明、浄瑠璃、歌舞伎)平成 29 年度(民謡、伝統音楽の概要)

以下にそれぞれの教材からサンプルとして三つのフロント画面を提示する。

【雅楽】42 分



田中健次(単著)「紀伊国と日本音楽」和歌山医師会『和歌山医師会記念誌』pp.7-18:2017年5月
田中健次(単著)「デジタル化と音楽」音楽文化創造刊『季刊音楽文化の創造』pp.7-10:2017年3月

〔学会発表〕(計5件)

田中健次「日本伝統音楽におけるICT活用」京都音楽教育研究会主催(京都市教育センター)2018年2月2日
田中健次「楽しみながら学ぶ日本伝統音楽の授業」山形県音楽教育連盟主催(山形市市民会館)2017年8月1日
田中健次「考える音楽授業をどのようにしてつくるか 日本伝統音楽の場合 - 」佐賀県音楽教育研究会主催(佐賀市東与賀町文化ホール)2016年8月22日
田中健次「解体:日本音楽」音楽文化創造主催(大阪第二ビル生涯教育研修所)2016年2月13日
田中健次「ICTを活用した日本伝統音楽の学習」宮崎県音楽教育研究会主催(宮崎市民文化ホール)2015年8月17日

〔図書〕(計3件)

田中健次(共著)『新しい小学校音楽科授業のために-教科専門と教科教育の融合のために』(担当項目)「異文化の音楽」ミネルヴァ書房 pp22-30:2018年3月
田中健次(共著)『最新初等音楽科教育法』(担当項目)「電子楽器とコンピュータの活用」音楽之友社 p77:2018年3月
田中健次(単著)『*traditional Japanese Music at a Glance*』ACDEMIA MUSIC LTD pp1-294:2017年3月

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
田中健次(TANAKA KENJI)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号:10274565

(2) 研究分担者
()

研究者番号:

(3) 連携研究者
()

研究者番号:

(4) 研究協力者
()